

善立寺本堂、七面堂、玄関、山門

(ぜんりゅうじほんどう、しちめんどう、げんかん、さんもん)

員 数：4 件

所在地：岡崎市祐金町 1 丁目 31

所有者：宗教法人善立寺

1 登録理由

善立寺本堂

日蓮宗寺院の堂舎であり、本堂は内陣に禅宗様須弥壇^{しゅみだん}を置き、上方を極彩色^{ごくさいしき}で飾って装飾密度を高めている。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

七面堂

本堂西に位置し、内陣まわりの来迎柱上に出組を載せ、極彩色を施して荘厳さを表現している。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

玄関

本堂東に位置し、唐破風造の玄関を設け、格式ある正面構えを見せている。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

山門

境内南西隅に位置し、高麗門形式の城門を思わせる古式な姿形で、境内の表構えに趣を与えている。

(登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの)

2 概要

本堂

木造平屋建、瓦葺、建築面積 184 m²、建設年代 享保 19 年(1734)／昭和 5 年・同中期改修

七面堂

木造平屋建、瓦葺、建築面積 82 m²、建設年代 江戸後期／明治後期・昭和 44 年改修

玄関

木造平屋建、瓦葺、建築面積 67 m²、建設年代 明治 31 年

山門

木造、瓦葺、間口 3.2m、左右袖塀付、建設年代 明治前期

大光山善立寺は、日蓮宗身延山久遠寺の末寺として、現在も三河地方の中心的存在である。創建は、応仁元年～3 年（1467～69）で、開山は本山妙覚寺十五世本是院日護上

人とされる。

本堂は、敷地の中央部やや西側に建ち、桁行6間（実長8間）、梁間7間（実長8間）、寄棟造¹、棧瓦葺²、西に七面堂が接続する。前面に1間（実長2間半）の向拝³、北側背面に位牌堂が付く。正面と向かって右側に半間の濡縁⁴が通る。内陣の来迎柱のみ円柱で、上方を極彩色で飾る。来迎壁の前には、典型的な禅宗様須弥壇⁵が置かれている。

七面堂は、東に並んで配置される。間口2間半奥行6間の切妻造⁶、棧瓦葺、前面に半間の濡縁と1間の向拝が付く。向拝まわりは極彩色の寛政期の様式が見られる。

玄関は、本堂の東側に接続して建つ。座敷三室を一行に並べ、渡り廊下により本堂に接続している。中央には唐破風⁷玄関を張り出す。正面から見ると、左から七面堂・本堂・玄関が一体化して見える。

山門は、敷地の南西部に西を正面にして建つ。棧瓦葺の高麗門⁸は、主柱は長方形断面、控柱は面取角柱で主柱間に楯を入れ、頂に冠木⁹を通し、主柱や楯から前後に腕木を出して、出桁を受け、短い切妻の屋根をかける。

1 寄棟造：屋根の形式の一つで、四方向に傾斜する屋根面を持つもの。

2 棧瓦葺：屋根の重量軽減策として、平瓦と丸瓦を一体化させた波型の棧瓦を使用した葺き方。

3 向拝：参拝人の礼拝のために仏堂や社殿の正面中央に張り出して設けた庇^{ひさし}。向拝の大きさは、柱間の間数で示す。

4 濡縁：居室の外側に設けられた縁側。風雨を防ぐ壁などがなく、雨に濡れてしまう。

5 須弥壇^{しゅみだん}：仏像を安置する仏壇。

6 切妻造：屋根形式の一つ。棟から両側に流れる面のみからなる、最も簡単な屋根構造。

7 唐破風^{からばふ}：中央部を弓形に、左右両端が反り返った曲線状の破風(屋根に施された装飾)。

8 高麗門：豊臣秀吉の朝鮮出兵以来の城郭建築独特の門。

9 冠木^{かぶき}：門や鳥居などで左右の柱の上部を貫く横木。



本堂外観 正面（岡崎市教委提供）



七面堂外観 南より（岡崎市教委提供）



玄関 外観 南より（岡崎市教委提供）



山門 外観 北東より（岡崎市教委提供）